

歴史まちづくりに向けた地域文化資源と活動に関する研究

—旧唐津街道箱崎宿界隈を対象として—

高比良 菜津

1 はじめに

1.1 研究の背景と目的

近年、歴史まちづくりに関する取り組みが盛んになっている。その手法は、重要文化財・登録文化財や重要伝統的建造物群保存地区の指定にとどまらず、文化財でなくとも地域にとって重要な建物や地域固有の生活文化など様々な対象を「地域文化資源」と位置付け、これらを活用する取り組みへと展開している。

本研究では、旧唐津街道箱崎宿界隈を対象として、地域文化資源を活かした歴史まちづくりの実現に向けて調査研究を行うことを目的とする。具体的には、歴史まちづくりに活用可能な地域文化資源を現地調査の上、整理し、それら資源の保存・管理・活用の現状を明らかにする。また、対象地の資源を守る役割を担うと考えられる旧町について、その活動状況を把握し考察する。以上より、対象地における今後の歴史まちづくりの発展可能性について検討する。

1.2 研究の対象と方法

研究対象は、「旧唐津街道箱崎宿界隈」とする(図1)。唐津街道は、肥前唐津城下に向かう街道として江戸時代に整備され、この唐津街道に沿って箱崎宿が形成された。箱崎宿は現在の箱崎地区内に位置したが、本研究では、筥崎宮の門前町を挟んで箱崎宿とともに発展してきた馬出地区の一部も含めて「箱崎宿界隈」とする。これにより、歴史まちづくりを現在の地区単位で区切るのではなく、歴史的に地域文化を共有してきた領域で捉えることができると考える。箱崎宿界隈には歴史まちづくりへ活用の可能性がある資源が現在も点在しており、放生会を代表とする古くからの祭礼も数多く残っている。

研究方法は、基礎的な文献や資料の調査に加え、箱崎宿界隈の現地調査、活動や資源の具体的な内容を把握するためのヒアリング調査、絵図史料の読み取りを行った。研究に用いた主な文献・資料は参考文献1)~20)に、ヒアリング調査の日程と対象は注1)に示した。

2 旧唐津街道における歴史まちづくり活動

唐津街道に置かれた箱崎宿といくつかの宿場において、現在までに行われてきた歴史まちづくり活動をヒアリングや資料を元に把握し、時系列に整理した(表1)。

活動内容の傾向を考察したところ、景観整備、町家活用、学習・啓発活動、価値発信、人づくりの5種類に分類することができた。

箱崎宿では平成16年までに8件の活動を行っており、他の宿場と比較しても早い段階から活動に取り組んでいることが分かる。しかし活動の全体数を見ると、箱崎宿は18件、姪浜宿は22件となっており、箱崎宿は平成20年から本格的に活動を開始した姪浜宿より少ない。また、箱崎宿の活動は他の宿場の活動と比較すると単発のものが多く分かる。活動の種類を見ると、博多宿や赤間宿、姪浜宿は様々な種類の活動に取り組んでいるが、箱崎宿は人づくり、価値発信、町家活用

表1 旧唐津街道歴史まちづくり活動年表

| 年 | S62 | ~ | H6 | H7 | H8 | H9 | H10 | H11 | H12 | H13 | H14 | H15 | H16 | H17 | H18 | H19 | H20 | H21 | H22 | H23 | H24 | H25 | H26 | H27 | H28 | H29 | H30 | |
|-----|-----|---|----|----|----|----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|--|
| 箱崎宿 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 赤間宿 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 姪浜宿 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 博多宿 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 前原宿 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

の3種類の活動しか行っておらず、取り組み内容に偏りが見られる。中でも、歴史散策や史跡めぐりのようなツアー型イベントが8件ととても多い。またそのイベントのそれぞれのツアーコースを見ても、毎回同じ史跡や歴史スポットを回っていることが分かった。

以上を踏まえて、箱崎宿界隈における歴史まちづくりの発展可能性を考察する。箱崎宿界隈における活動の傾向の原因としては、歴史まちづくり活動に専念できる人材が少ないこと、その人材の年齢層が高いこと、また活動主体が知っている活用可能な資源が少ないことが考えられる。一方で、地域文化資源の価値の発信は多く取り組まれているため、活動の認知度が高くなるにつれて、人々へ価値の発見や再認識を促すことに繋がっている。また単発ではなくシリーズ化した活動を行うことも価値を広めることに繋がると考える。活用可能な資源を発掘し、さらに多くの人材・団体が歴史まちづくり活動に取り組むことで活動の頻度や多様性が促進されると考える。

3 箱崎宿界隈における地域文化資源の現状

3.1 町家・寺社・工作物・年中行事に関する調査

本項では「平成22年度福岡市内所在文化財悉皆調査¹⁾」(以下「悉皆調査」と略記)を元に、町家、寺社、工作物(堂、祠、碑、塚など)、年中行事に関して、資源の分布、名称、種類、由来、建築年代、当該資源に関連する行事等を調査した。調査方法は、悉皆調査から町家、寺社、工作物を抽出し、現地調査によって滅失していたものを除外し、所在地を図に示した(図1)。年中行事に関してはヒアリング調査を行い、年中行事の名称、日程、場所を把握し、合わせて図に記した(図1)。

これを元に考察していくと、まず町家は箱崎宿界隈に点在して残っており、特に白濱網屋、御茶屋跡、御所内、寺中に多く見られる。比較的長く保存状況の良い町家は、旧唐津街道沿いと現在のバス通り沿いに多く分布していることが分かった。これは、道路整備や土地開発が行われていない場所に多く残っていると言える。寺社は19軒と多数あり、均等に分布している。網屋天満宮、須佐神社・道具山神社、三角神社・高倉神社のように複数の神社が合祀されているものが多いのも特徴的である。工作物は全部で94件把握でき、箱崎宿界隈に分散して分布している。その内、文化財に指定されているものが6件、旧町名碑等の旧町に関連するものが8件あった。25件は由来や建築年代が不明なものであった。また米一丸地蔵のように複数の工作物が1つの敷地にまとめられているものが10件と多く、主に道路整備や土地開発が要因として挙げられる。年中行事は74件把握でき、その内29件は管崎

宮関連の行事であった。寺院は毎月行事を行っているところが多く、小さな神社やお堂でも1年に数度それぞれの縁日に祭礼行事を行っていることが分かった。

3.2 町家・工作物の保存・管理・活用の現状

(1) 町家

3.1で把握した町家の中から建築年代の古いもの10軒を抽出し、居住者・使用者にヒアリング調査を行った。調査項目は、建築年代、町家の所有者と使用者の変遷、用途の変遷、現在までの改修状況と改修の理由、管理上の問題点、使用できなくなった場合どうするか、などを聞いた。用途としては、現在は住居としてのみ使っている町家が4軒、その他は住居と兼ねて飲食店や事務所、店舗、レンタルスペースとして活用している町家であった。改修に関しては、現在の家族構成や居住の仕方に合わせて増築・改修を行ったものがほとんどであった。管理上の問題点としては、寒さや掃除が大変という意見や、古い建物を修理する技術を持った業者が少なくなっているという意見もあった。町家修復の資金のためにレンタルスペースとして活用している町家もあり、生活面・技術面・金銭面など様々な要因で町家を維持することが困難だと感じている居住者が多いと分かった。また文化財として保存したいと考えている人は少なかった。

(2) 工作物

3.1で把握した工作物について、現在までの管理の状況を調査した。工作物の所在地の近隣住民へのヒアリング調査により把握できた工作物は7件あった。高麗犬地蔵は昔から網屋立筋2組が約10軒で管理を行ってきたが、高齢化やマンションの増加で今は3軒で管理している。九州大学工学部通用門から出たすぐのお堂は、近所に住んでいるご老人が1人で掃除等をしている。車僧観音堂、須佐神社・道具山神社、白山大権現はそれぞれ茶屋小路、上町、寺中の各町で管理している。将軍地蔵堂は将軍地蔵協会が管理しており、網屋天満宮は地域の海にまつわる工作物が境内に移転させられ、箱崎漁業協同組合がまとめて管理している。将軍地蔵堂や網屋天満宮のように団体が管理している場合は良いが、高麗犬地蔵やお堂のように個人や少人数で管理しているものは、数年後には管理できなくなる可能性があり、また実際に高齢化等で管理するのが難しいという声も上がっていた。

3.3 小結

以上のように、箱崎宿界隈には多くの地域文化資源が現存していることが明らかとなった。中でも所有者に活用の意志がある町家、寺社、由緒のある工作物は歴史まちづくりへと活用可能である。年中行事は主に寺社の祭礼行事であり、まちづくりに活用するというよりも

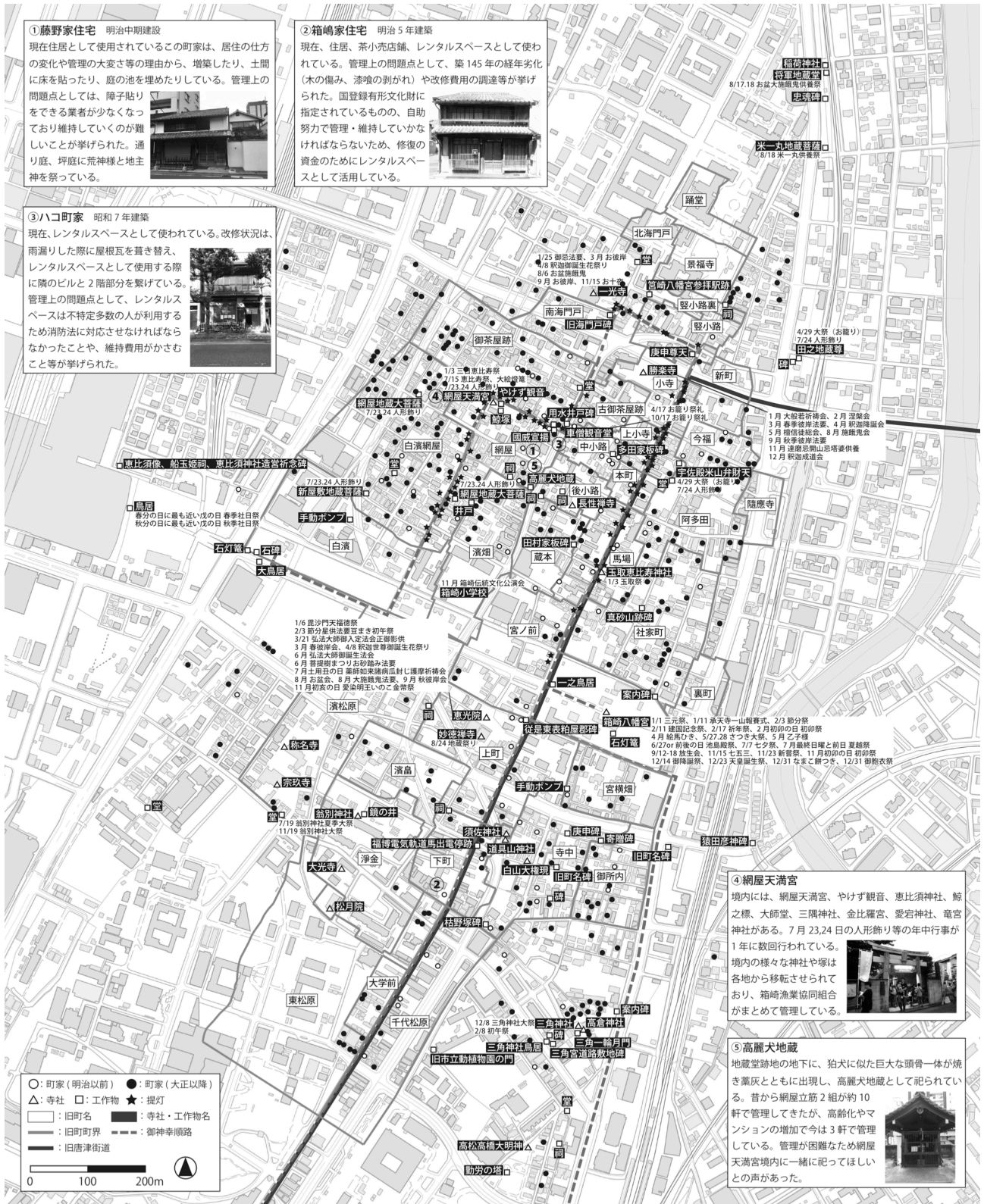


図1 旧唐津街道箱崎宿界隈の地域文化資源

神事として地域で守っていくべきだと考える。管理の現状を見てみると、生活面・技術面・金銭面で維持することに苦勞を感じていたり、高齢化や都市環境の変化により管理していくことができなくなる可能性があったりする。また、道路整備等によっても資源が失われる可能性は大きく、今後の資源の維持に不安要素が見えた。

4 歴史まちづくりにおける旧町の役割

4.1 箱崎宿界隈における明治時代の町界町名

箱崎宿界隈における旧町単位の組織での取り組みの実態を明らかにする上で、まず旧町の町名と町界を明らかにする。箱崎地区においては先行研究²⁾において、明治21年当時の町名と町界が復元されている。この成果に加

えて、「地籍図」³⁾を主な史料として、明治21年当時の馬出地区の町名と町界を明らかにした(図1)。

4.2 旧町単位で行われている祭礼調査

(1) 筥崎宮放生会と御神幸の概要

筥崎宮放生会は、博多どんたく、博多祇園山笠と並ぶ博多三大祭りの一つで、千年以上前から行われている重要な神事である。7日間の期間中は、各種神事や様々な神賑わい行事が執り行われ、参道には約500軒の露店が立ち並び、のべ100万人が訪れる。御神幸(お神輿行列)は、福岡市無形民俗文化財に指定されている神事で2年に1度行われる(図1)。9月12日の御下りと9月14日の御上りがあり、3基の神輿を中心に、様々な御神具を持った氏子約500名が練り歩く行事である。

(2) 御神幸における旧町単位の役割

現在、各地の神幸祭の多くは、本宮と御旅所を昼間に往復するという形で行われているのに対し、筥崎宮放生会の御神幸は、夜間に長時間をかけて巡幸し遷御・還御を行うところに昔の流儀が残されている。神輿行列の奉仕順序に関しても江戸期のものをほとんど踏襲しており、3基の神輿は一ノ戸、二ノ戸、三ノ戸という古い呼称で呼ばれている。また御神幸の運営は、町界町名の変更がなされたにも関わらず、旧来の奉仕分担が継承されているということがヒアリング調査により明らかとなった。3基の神輿を担ぐのは、社領六町と呼ばれる筥崎宮周辺の町(上社家・下社家・宮前・馬場・前川・郷口)である。神輿の周りを囲む供奉も各町で役割が決まっており、賽銭箱は海門戸三町(海門戸・帝大前・米一丸)・小寺・阿多田・寺中、鐘・太鼓は海門戸・阿多田・寺中、大櫛は網屋である。

(3) 祭礼飾りから見た御神幸への参加状況

前述の通り、御神幸の奉仕は古くからのしきたりで参加できる役割と町が決められている。そのため、御神幸の奉仕の有無によって各町の行事への参加度を測ることは難しい。そこで本研究では、御神幸への各町の参加の状況を測る1つの手段として、2017年9月12日の御神幸御下りの日に、御神幸順路に面した各家の玄関先に表出している祭礼飾りを調査した(図1)。その結果、箱崎側は提灯を飾っている家が多いのに対し、馬出側では提灯を飾っている家は1軒も見られない。3.2(1)の町家ヒアリング調査を行った際に提灯飾りについても話を聞いたところ、町ごとに形を揃えて準備しているという話があった。現在馬出側では自治会活動も含め町界町名変更後の町名を使っているが、箱崎側では現在でも自治会活動に旧町名と町界を使っている。このため、箱崎側では旧来からの自治会活動を継承しており、その一貫として提灯飾り

を各町で揃えて準備しているものと見られる。

4.3 小結

御神幸の奉仕分担に旧町単位での運営体制が残っていることが明らかになった。旧町単位の取り組みが残っていることによって祭礼や工作物等の資源が維持されていることから、旧町という単位が歴史まちづくりに少なからず貢献していると言える。

5 おわりに

以上の調査研究より、箱崎宿界限における歴史まちづくりに向けた発展可能性を検討する。まず、所有者に活用の意志のある町家、寺社、由緒のある工作物、そして旧町が重要な資源だと言える。また、現存する資源を活用する前に、まずは資源を維持する体制を整えることが重要ではなかろうか。その上で、歴史まちづくり活動に専念できる人材を育てたり、活動を通して資源の価値を広めたり、資源の活用方法を考えたりしていくことで、歴史まちづくりを発展させていくことができると考える。

【注】

1) 各宿場活動内容のヒアリング先と日程

| 調査日 | ヒアリング先 | 2017/8/31 | 唐津街道むなかた推進協議会 |
|------------|----------------|------------|--------------------|
| 2015/10/21 | ハカタ・リバイバル・プラン | 2017/10/26 | 筥崎宮祭典委員・博多仁和振興会相談役 |
| 2015/10/22 | 博多まちづくり推進協議会 | 2017/12/7 | 箱崎家住宅 |
| 2015/10/28 | 御供所まちづくり協議会 | 2017/12/11 | 筥崎とろろ |
| 2015/10/29 | はかた部ランド協議会 | 2017/12/11 | 柴徳商店 |
| 2015/11/2 | 冷泉まちづくり協議会 | 2017/12/12 | 馬出5丁目住民0氏 |
| 2015/11/6 | 奈良屋まちづくり協議会 | 2017/12/13 | 天井棧敷 |
| 2015/11/6 | 大浜まちづくり協議会 | 2017/12/20 | 箱崎3丁目住民K氏 |
| 2017/7/28 | 唐津街道歴史研究所 | 2017/12/20 | 箱崎2丁目住民F氏 |
| 2017/8/3 | 唐津街道睦町宿保存会 | 2017/12/20 | 箱崎1丁目住民A氏 |
| 2017/8/8 | 唐津街道姪浜まちづくり協議会 | 2017/1/9 | ZEN環境設計 |
| 2017/8/26 | 箱崎まちづくり委員会会長 | 2017/1/20 | 箱崎2丁目住民S氏 |

【参考文献】

- 1) 福岡市, 「平成22年度福岡市内所在文化財悉皆調査」, (2010)
- 2) 下岡未歩, 「旧唐津街道箱崎宿界限における明治初頭の空間構造に関する研究」, 平成28年度九州大学工学部建築学科卒業論文, (2017)
- 3) 「地籍図」, 福岡法務局箱崎出張所所蔵, (明治作成)
- 4) 「箱崎まちづくり委員会」, <http://www.hakozaki.org/machidukuri.html>, 2018年1月17日アクセス
- 5) 白木里恵子、久保勝裕, 「北海道地方都市における歴史的建造物の転用に向けた活用実態に関する基礎的研究」, 都市計画論文集, No. 45-3, pp. 373-378, (2010)
- 6) 福岡市教育委員会文化財整備課, 「福岡市の板碑」, (1992)
- 7) 片山技研, 「福岡地典」, (1961)
- 8) ゼンリン, 「ブルーマップ福岡市東区」, (2013)
- 9) 齊藤知恵子、三浦卓也, 「郡上八幡における歴史的資源調査—歴史的資源を活かしたまちづくりにむけた歴史的建造物悉皆調査—」, 都市計画論文集, No. 42-3, pp. 439-444, (2007)
- 10) 宮崎克則, 「古地図の中の福岡・博多」, 海鳥社, (2005)
- 11) 福岡市教育委員会, 「福岡市の庚申塔」, (1999)
- 12) 「筥崎宮放生会ガイド」, 株式会社明広, (2017)
- 13) 井上俊男, 「筥崎宮伶人座箱崎組の歩み」, 筥崎宮伶人座, (1973)
- 14) 「御神幸規定」, (2017)
- 15) 「御神幸祭典日程」, (2017)
- 16) 「唐津街道豊前筑前福岡路」, 図書出版のぶ工房, (2006)
- 17) 博多まちづくり推進協議会, 「事業報告書」, (2007-2014)
- 18) 博多まちづくり推進協議会, 「博多まちづくりガイドライン2014」, (2014)
- 19) 御供所名店会、御供所まちづくり協議会, 「博多御供所周辺地区 博多部の地祭りご案内」, (2010)
- 20) 御供所/大浜/冷泉/奈良屋自治協議会, 「公民館だより」, (2014)